

# あいち歴史さんぽ

第四歩

県立高等学校などの歴史的建造物を紹介します。



感喜堂(南東から)

## 愛知県立瑞陵高等学校感喜堂及び旧正門

愛知県立瑞陵高等学校は、名古屋市瑞穂区北原町、地下鉄桜通線瑞穂区役所駅の西300mに位置し、前身は明治40年(1907)に愛知県立第五中学校として開校した県内有数の伝統校です。最近では、杉原千畝氏の母校としても話題を集めています。

感喜堂は、この地に所在した旧愛知県商業学校(大正8年(1919)開校)の講堂として大正13年(1924)に建てられたもので、昭和23年(1948)に瑞陵高等学校となってからも引き継がれ、後に図書館、昭和54年(1979)からは定時制の給食室として使われています。愛知県営繕課(当時)の設計によるもので、鉄筋コンクリート造の平屋建て、屋根は寄棟造の棧瓦葺き、規模は梁間15.6m、桁行27.4mの約430㎡で、校地の南西隅に立地しています。外部に柱を出し、柱基にやや膨らみを持たせ、柱頭には簡略化した線形を施す意匠が特徴であり、大正時代の県立学校の建築様式として「モダンルネサンス」を表現しています。また、感喜堂と同時期に建てられた旧正門は、現在も生徒の通学時に使用されており、平成29年には国の登録有形文化財に登録されました。



旧正門(南から)

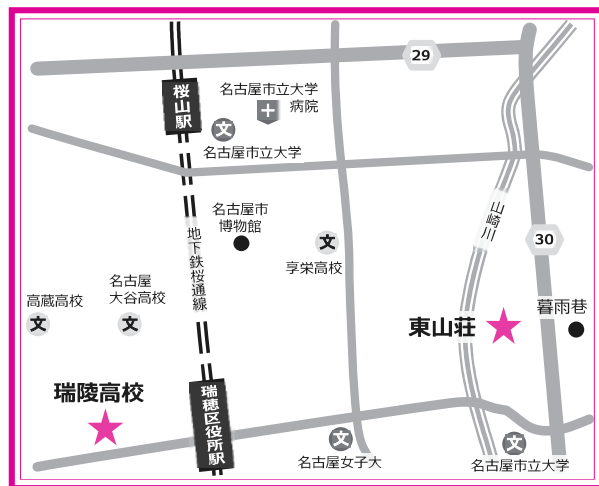
## 名古屋市東山荘主屋ほか

名古屋市東山荘は、名古屋市瑞穂区初日町、地下鉄桜通線瑞穂区役所駅の東900mに位置する綿布問屋を営んだ伊東信一氏が所有していた別荘です。山崎川の東、河岸段丘の頂部に建ち、伊東家の山荘であることから「東山荘」と名付けられたと言われています。現在は市の施設として公開・活用されており、平成25年には国の登録有形文化財に登録されました。

敷地北西に建つ主屋は、前館、中館、後館からなり、建物南側に回遊式庭園を持つ数寄屋風建築です。和洋室併置、数寄屋風洋室など時代に先駆けた特徴とともに、茶室の東丘庵、仰西庵を持つなど、大正時代のお茶処名古屋の大邸宅としての性格を持っています。

敷地の東側にある、道路に対してやや斜めに建つ茅葺きの正門と銅板葺きの塀は、落ち着いた景観を作り出しています。また、主屋の南側には、杉皮葺き切妻屋根の腕木門である庭門と鉄板葺き切妻屋根の塀があり、前庭と庭を仕切ることにより庭へのアプローチを演出しています。

<参考文献> 愛知県の近代和風建築(平成19年、愛知県教育委員会)



※東山荘は、平成30年4月1日から11月30日まで耐震改修のため休館予定



主屋(南東から)



主屋(南から)



正門及び塀(東から)



愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室  
TEL: 052-954-6783  
E-mail: syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp

